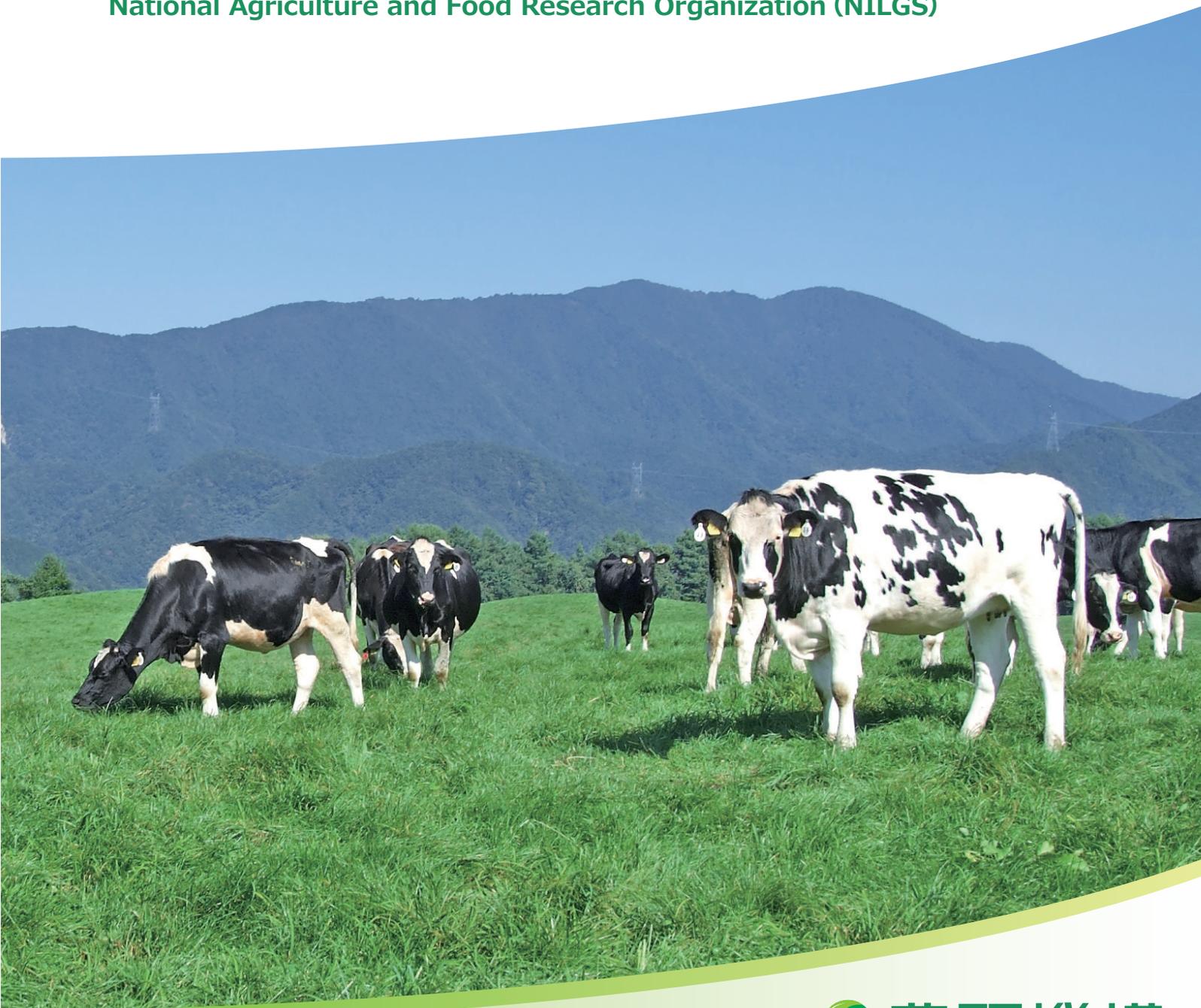


# 農研機構 畜産研究部門

Institute of Livestock and Grassland Science,  
National Agriculture and Food Research Organization (NILGS)



## 実施する研究と畜産研究部門の役割

# データ駆動型畜産経営の実現による生産力強化

飼料自給率の低迷、畜産農家の労働力不足、畜産業に由来する温室効果ガス排出、畜産物に対するニーズの多様化、アニマルウェルフェアへの対応などの畜産業を取り巻く諸課題や野生鳥獣による農業被害に対応するため、以下の研究開発と成果の社会実装に取り組みます。

- データ駆動型スマート畜舎の実現による生産力強化
- 国産飼料の安定供給技術とスマート生産牧場の構築による生産力強化
- 消費者嗜好に適合した食肉用家畜生産技術の開発による輸出力強化
- 革新的飼養技術の開発による乳牛のメタン排出大幅削減と生産力強化
- アニマルウェルフェアに対応した家畜管理・野生鳥獣被害対策の強化

畜産研究部門では、飼料生産・家畜生産・家畜排せつ物の処理・野生鳥獣被害対策に関する研究を一体的、総合的に推進し、良質で安全な畜産物の生産力強化と環境保全に貢献します。

## 農研機構 組織図

2021.4.1 現在

理事長 監事

副理事長・理事

本部(管理本部含む)

- 基礎技術研究本部
- ・農業情報研究センター
  - ・農業ロボティクス研究センター
  - ・遺伝資源研究センター
  - ・高度分析研究センター

食品研究部門

畜産研究部門

動物衛生研究部門

北海道農業研究センター

東北農業研究センター

中日本農業研究センター

西日本農業研究センター

九州沖縄農業研究センター

農業機械研究部門

作物研究部門

果樹茶業研究部門

野菜花き研究部門

生物機能利用研究部門

農業環境研究部門

農村工学研究部門

植物防疫研究部門

種苗管理センター

生物系特定産業技術研究支援センター

所長

研究推進部

・研究推進室

高度飼養技術研究領域

・スマート畜産施設グループ

・繁殖システムグループ

畜産飼料作研究領域

・飼料作物育種グループ

・飼料生産利用グループ

・省力肉牛生産グループ

食肉用家畜研究領域

・食肉品質グループ

・食肉用家畜モデル化グループ

・食肉用家畜飼養技術グループ

乳牛精密管理研究領域

・乳牛精密栄養管理グループ

・乳牛繁殖性向上グループ

動物行動管理研究領域

・動物行動管理グループ

## 研究領域

### 高度飼養技術研究領域

畜産農家の労働力不足への対応、環境配慮型畜産経営の実現に向け、搾乳ロボット等からのデータ収集・活用技術を開発し、畜産施設のデジタルモデルを構築します。堆肥化における省エネルギー技術、浄化処理における窒素除去性能技術を組み合わせ、温室効果ガス排出量の削減を目指します。飼養管理の省力化を図るため、画像等センシングデータや繁殖性評価指標を活用した省力的繁殖管理技術の開発に取り組みます。



日本型スマート搾乳システムの開発

### 畜産飼料作研究領域

飼料自給率の向上に向け、耐湿性トウモロコシや高越冬性ライグラス類などの先導的飼料作物品種の育成を進めます。また、水田を活用した子実用トウモロコシの低コスト安定生産・利用技術を開発し、輸入トウモロコシに対抗できる価格での畜産農家への供給実現を目指します。畜産農家の労働力不足に対応した肥育素牛の効率的安定生産に向け、ICTを用いた草地と牛のモニタリングに基づく省力管理技術を開発します。



親子で放牧中の肉用牛

### 食肉用家畜研究領域

多様なニーズに対応した畜産物の安定生産と輸出拡大に向け、官能試験や消費者嗜好調査、化学分析等の多彩な手法を用いて食味等の食肉品質の新たな評価指標を開発します。さらに、新たな評価指標を用いた育種手法と飼養技術を開発し、ニーズに対応した畜産物生産に寄与します。鶏・豚排せつ物由来のN<sub>2</sub>O排出削減と高品質食肉生産を両立する飼養管理技術の開発に取り組みます。



多様なニーズに対応した畜産物生産

### 乳牛精密管理研究領域

持続可能な酪農のため、温室効果ガス(メタン)削減と生産性向上の両立を目指し、簡便なメタン測定法やルーメン細菌制御によるメタン削減技術を活用した飼養管理技術を開発します。乳牛への受精卵移植による和牛子牛生産を効率的に行うための、質の高い精子を判別する技術と、受胎性の高い受精卵の大量生産・選別技術の開発に取り組みます。



つくば研究拠点パドックの乳牛

### 動物行動管理研究領域

畜産物の輸出拡大に向け、家畜の快適・健全性評価技術、アニマルウェルフェア配慮型飼養管理技術の開発とアニマルウェルフェアに配慮した畜産の収益化モデルの構築に取り組みます。野生鳥獣による農作物被害低減のため、加害獣駆除効率の向上や地域活性化・再生計画等の立案を可能とする野生鳥獣被害の管理技術、GISによる被害予測技術、鳥獣被害対策の地域戦略を提供するシステムを開発します。



擬似グルーミング装置  
グルーミングに興じる子牛(左)、圍場廃棄のイチゴを食べるアライグマ(右)

# 沿革および所在地

## 沿革

- 1916年(大正5年) 農商務省 畜産試験場 設立(千葉県)
- 1950年(昭和25年) 農林省 農業技術研究所に統合
- 1961年(昭和36年) 農林省 畜産試験場として再設立
- 1970年(昭和45年) 農林省 草地試験場の設立(畜産試験場から分離・独立)
- 1980年(昭和55年) 農林水産省 畜産試験場のつくば移転
- 2001年(平成13年) 独立行政法人化。農業技術研究機構 畜産草地研究所に改組
- 2016年(平成28年) 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門に改組

## 所在地および交通案内

### つくば研究拠点 池の台事業場(本所)

〒305-0901  
茨城県つくば市池の台2  
Tel 029-838-8600(代表)  
Fax 029-838-8606

### 那須塩原研究拠点

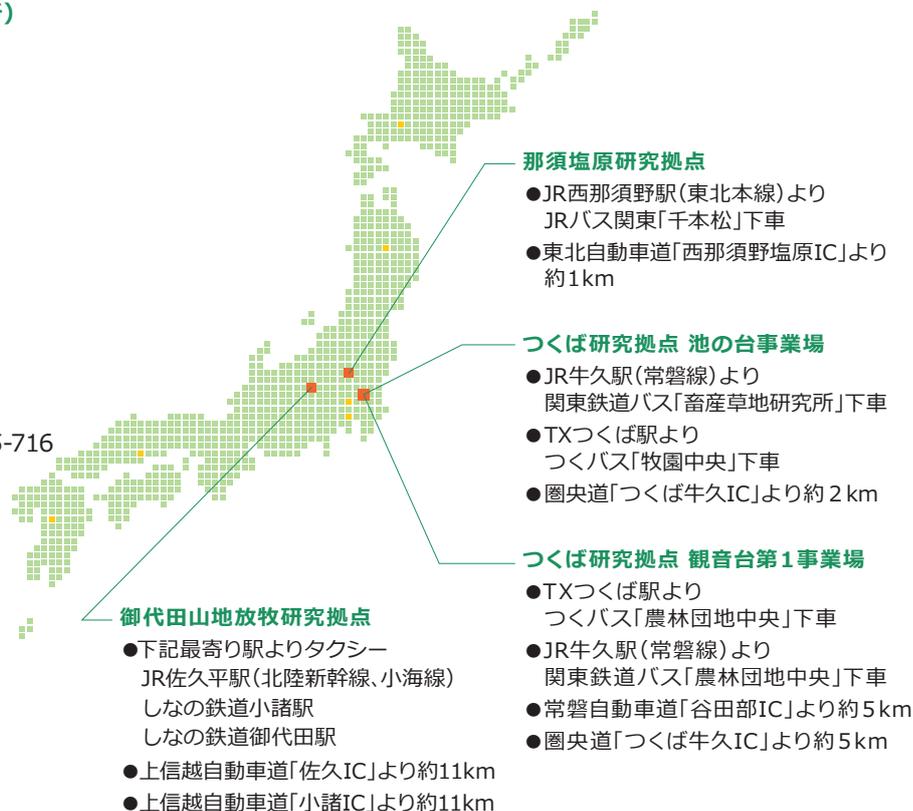
〒329-2793  
栃木県那須塩原市千本松768  
Tel 0287-36-0111(代表)  
Fax 0287-36-6629

### 御代田山地放牧研究拠点

〒389-0201  
長野県北佐久郡御代田町大字塩野375-716  
Tel 0267-32-2356(代表)  
Fax 0267-32-2318

### つくば研究拠点 観音台第1事業場

〒305-8666  
茨城県つくば市観音台2-1-18  
Tel 029-838-8481(代表)  
Fax 029-838-8484



## お問い合わせ

### 農研機構 畜産研究部門

農研機構ウェブサイトの「お問い合わせ」からお願いします。

<https://www.naro.go.jp/inquiry/>

右の二次元コードを読み取ることでアクセスできます。



※「農研機構」は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構のコミュニケーションネーム(通称)です。

表紙写真: 八郎ヶ原牧場での牛の放牧風景(栃木県那須塩原市)

○本冊子は、グリーン購入法(国等による環境物品等の調達に関する法律)に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。  
○リサイクル適正の表示: 紙へリサイクル可 本冊子は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[Aランク]のみを用いて作製しています。